
執筆 者 紹 介

阿久津 智 (あくつ さとる)	拓殖大学外国語学部教授
于 艶麗 (う えんれい)	瀋陽航天航空大学講師
胡 新祥 (こ しんしょう)	西安理工大学講師
肖 江楽 (しょう こうらく)	広西師範大学講師
舒 志田 (じょ しでん)	立教大学日本学研究所研究員
蕭 惠文 (しゃお ほういうえん)	立教大学大学院院生
山下 洋子 (やました ようこ)	立教大学大学院院生
青柳 沙恵 (あおやぎ さえ)	立教大学大学院院生
権 宇琦 (けん うき)	拓殖大学大学院院生
波木井 優子 (はきい まさこ)	二松学舎大学非常勤講師
吉田 敬 (よしだ たかし)	元立正大学教務助手
平井 吾門 (ひらい あもん)	立教大学文学部准教授

編 集 後 記

2018年4月に平井が立教大学に着任し、沖森卓也先生が長年続けてこられた立教大学日本語研究会および『立教大学日本語研究』を引き継ぐこととなりました。とはいえ、月一回行われていた研究会は、再開したものの三月に一度の開催にとどまり、雑誌の発行もスムーズに再開することは出来なかったため、沖森先生や会員の皆様にはご不便・ご心配をおかけしてしまいました。二年の間を空けてしまいましたが、本誌をこうして再び世に問うことができ、心より安堵しております。

雑誌再開を決めた後、会則や投稿規約の改訂を協議し、投稿を呼びかけるに至ったのは2019年も暮れようとしていた頃でした。従来、研究の一つの目安として本誌を位置づけられていた方々には無理なスケジュール管理を強いることになりましたが、結果的に多様な分野に関する12本の論文を載せることができました。国内外から力作を寄せて下さった皆様に感謝申し上げます。堅実な論考から挑戦的なものまで、幅広い研究スタイルの論考が集まっておりますので、皆様からご批評をお寄せいただければ幸いです。

本誌は、体制が変わるのを機に、従来の紙媒体からウェブ公開を主体とする雑誌へと舵を切ることになりました。金銭面に加えて、速報性の高さや国際的な発信力という面から各学会等でそのメリットが周知されて久しいと言えましょう。表記や体裁の統一などにはまだまだ課題があるものの、編集の効率化を進めつつ、紙幅に囚われないという特性を生かした論考の投稿を広く呼び掛けていきたいと思っております。

本会は、立教大学の院生や卒業生が主体ではありますが、日本語研究に興味関心のある多彩な方々で成り立っております。若輩ではありますが、日本はおろか地球上の皆様のお力をお借りして、本会および本誌そして日本語研究がますます盛んになるよう努めて参ります。どうぞ引き続き宜しく願い申し上げます。(平井)